



THE ROTARY CLUB OF SADOWARA WEEKLYBULLETIN

佐土原ロータリークラブ週報

1996・97年度国際ロータリー・テーマ

国際ロータリー会長 ルイス・ビセンテ・ジアイ



1. 先達の歩みに敬意を払うことによって未来を築こう
2. 会員増強で未来を築こう
3. 職業奉仕の質を高めることによって未来を築こう
4. 次の世代を準備することによって未来を築こう
5. 平和な都市づくりに尽力し、未来を築こう
6. ロータリー財団を支援することによって未来を築こう

新世代のための月間

第427回 平成8年9月20日(金)

[本日のプログラム]

- | | |
|-------------|-------|
| 1. 点 | 鐘 |
| 2. ロータリーソング | |
| 「我等の生業」 | |
| 3. 食 | 事 |
| 4. 会長の時間 | |
| 5. 幹事報告 | |
| 6. 各委員会報告 | |
| 7. 会員卓話 | 斎藤芳夫君 |
| 8. 点 | 鐘 |

次回予告

*9月27日(金)

夜間例会

観月会

19:00

シーサイドホテルフェニックス

ご家族同伴

*10月4日(金)

セレモニー

会員卓話

佐野 保君

佐土原ロータリークラブ

例会日 毎週金曜日(12:30~13:30)

例会場 石崎浜荘 ☎0985-73-1913

事務局 宮崎郡佐土原町大字下田島20614-

佐土原町建築業協会内

☎880-02 ☎(FAX)0985-73-7170

会長 伊東忠寛

副会長 徳丸彰一

幹事 赤木達也

会計 宮原建樹

会費課長 垂水敏雄

第426回例会記録

(1996. 9. 13)

☆会長の時間

伊東忠寛君

皆さん今晚は、本日は第426回例会です。

○9月10日午後7時から西都市ウェディングパレス敷島で開催されました西都RCの『新世代ロータリー会議』に、青少年奉仕委員長徳丸彰一君とメイクアップしました。これは、このプログラムが最重点事項として確認され、先日のカバナー公式訪問においても海江田ガバナーから強い要請がありましたので、佐土原RCでも是非『新世代ロータリー会議』を実現したいという一念から、体験研修をしたのであります。

会議は「フォーラム」のスタイルでしたが、青年会議所・商工会青年部・JA青年部及び国際交流員の代表がパネラーとなり、西都RC会員との熱心な討議が交わされました。

西都RCの例会に出席してみて感じたことは、『西都RCには活気が漲っている。』の一言に尽きるようです。また、例会運営等につきましても、大変参考になることがありました。

皆さんも是非他クラブの例会に参加してみてください。要は、自ら体験してみることです。

○先週西都RCから西山会長ほか4名の会員の方が来会され、次年度のコ・ホストクラブについて協力依頼がありました。が、スポンサークラブである宮崎北RC、

高鍋RC及び佐土原RCがコ・ホストクラブに要請されているとのことですので、当然協力しなければならないと思います。

なお今後の大会日程は次のとおりです。

平成9年2月 IM (西都市)

3月16日会長会議 [PETS]

(西都市)

5月18日地区協議会 (宮崎市)

11月8日~9日 地区大会 (宮崎市)

○9月6日~11日に宮崎ブロックで4件、4名の交通死亡事故が発生し、同ブロックに交通事故多発警報が発令されました。最近は特に、若い人とお年寄りの交通事故が急増しております。

交通安全について、改めて認識を新たにする必要がありますと考えます。

☆幹事報告

赤木達也君

1. 例会変更通知

*西都RC 9月17日 12:30

西都商工会議所

青少年賞授与式

” 9月24日 19:00

山里

” 10月1日 12:30

西都商工会議所

” 10月8日 19:00

ウェディング敷島

2. 山脇会員が撮影されました公式訪問時の記念写真をいただきましたので、クラブ事務局で整理し、袋に入れて、それぞれのボックスに配布しておきました。山脇会員に感謝しながら、お受け取りくださいますよう、お知らせ申し上げます。

☆出席報告

委員長 山本民生君

会 員 数	31名
H C 出席者数	24名
欠 席 者 数	7名
出 席 率	77.4%
メイクアップ者数	4名
修正出席率	90.3%
欠 席 者 名	秋・井・細

☆社会奉仕委員会より

委員長 恒吉正志君

「だめ！絶対！」国連の覚醒剤、麻薬乱用撲滅運動への募金協力に対する礼状が、覚醒剤、麻薬等乱用防止センターから届きました。全国で募金された50万\$を国連事務局に寄付させていただいたと書いてありました。

佐土原クラブからは、皆さんのご協力により、15,500円を同センターに送金いたしました。心から御礼を申し上げます。

☆会員卓話 伊東俊春君

はじめに簡単な自己紹介をさせていただきます。

私はサブSAAの伊東俊春です。現在宮崎市大字島之内で、建築業・不動産業・賃貸住宅業を営んでおります。

本日は住宅についての話をいたします。

低金利と来年度からの消費税引き上げを見込んだ駆け込み住宅建築が目下多いようです。ただ問題点として、本年3月までは住宅金融公庫もスムーズに融資

の受け付けをしてくれたのですが、5月の申し込みからは預金残高証明を提示しないと金融機関は受け付けをしないようになりました。

今年の前半期の住宅建築状況は持家が30万戸で、去年の18%増になっており、賃貸住宅と合計すると75万5千戸になり、年間150万戸の新築が見込まれています。

今年5月の住宅建築着工戸数は、全国では136,500戸（前年比18.1%増）で、宮崎県は948戸（前年比14.8%増）（内 木造住宅545戸（同15%増））となっています。

建設経済研究所のまとめによりますと、1997年度には消費税アップと金利の上昇により、住宅建設に大きな打撃を与えることが明らかであるとのこと。

いわゆる不況が原因でか、今年是全国的に住宅金融公庫のローンのこげつきが急増し、前年度の2倍に当たります9,400件が返済不能になっております。そのワースト2が鹿児島県と宮崎県だそうです。本県が住宅金融公庫からの借入れに際して、審査が厳しくなったのは、このような実態が影響しているのではないかと考えます。

全国では、年間1,500億円から2,000億円の住宅ローン支払い不能額が生じているようです。

建設省は来年度にも、『住宅品質ランク制度』を設け、消費者が住宅の品質を客観的に判断するための資料を提供する予定である、と新聞に報道されていました。

これによって住宅販売業者は、耐久、遮音、耐火性を3～5段階にランキングし、契約前に消費者に明示するよう義務づけられることになります。

また、住宅金融制度が、9月30日までは住宅の床面積に応じて適用金利を定めていたのを、10月1日からは質の高い住宅に低金利で融資し、質の悪い住宅には高金利で融資するように改められる予定です。

質の高い住宅の条件の第1は高齢者の生活に配慮したタイプの住宅で、第2は断熱性が高く省エネルギータイプの住宅です。第3は耐久性タイプの住宅です。(以下、第1、第2、第3それぞれのタイプについての建築基準の説明がありました。) ◇ ◇ ◇ ◇ ◇

『私を生かす国際協力』

宮崎大宮高校3年 平田和枝さん

昨年1月のある夜、ふとつけたラジオが聞き慣れぬ言葉を発していた。「アジアの言葉だ」反射的にそう感じた私は、とうに電灯を消してしまった部屋の中で、じっと耳をそばだてた。不思議な言葉が深夜の静寂を破る。そのうち、「コウベ」、「ハンシン」という言葉が聞こえてきた。阪神大震災での外国人被災者向けの情報を流していたのである。そうか、悲しい思いをしたのは、日本人だけではなかったんだ、そう気付いてハッとしたと同時に、国籍を問わず助け合おうとする人間の心の温かさに触れた気がして、私も温しい気持ちに包まれた。そしてその瞬間暗闇の中に、アジアの黄金色の大地を私は見たのである。

未曾有の大惨事をもたらした阪神大震災は、一方、無関心・無感動と言われた若者達をボランティアに目覚めさせたきっかけでもあった。将来、アジアなどの途上国で働きたいと考えている私にとって、それはうれしい現象だったはずである。しかし、私の中には一抹の不安があった。

皆が、「誰かを助ける」「助けてあげる」と妙に躍起になっている気がしたのである。いや、自分自身そんな考えを心の奥に潜めているような気さえした。本当の国際協力、ボランティアの在り方とは、一体どのようなものなのだろうか。

そんなある日、会場ボランティアとして参加したベトナムの写真展で、私は写真と共にあってある数枚の絵にふと気付いた。不思議に思っ眺めていると、写真展の担当をしていたオーストラリアの女性、ダイアンが近づいてきて笑うのである。「ベトナムを自転車で横断した時描いたの。何日かホリデイがあったから。これは私。髪を洗っているところよ。途中で湖があってね、ボランティアのみんなと泳いだの。楽しかったなあ」

私はその時、ダイアンのあっけらかんとした顔に驚いてしまった。その写真展は、貧困に苦しむベトナムの現状を訴えるものだった。しかし、彼女には私の想い描いていたような悲愴な使命感など、微塵も感じられない。むしろ、楽しんで、自分を最大限に生かしてボランティアをしていたのである。そんな彼女の姿は、どんなに生き生きと希望に満ちて、私の目に映ったことだろうか。国際協力とは、ただ下を向いて黙々と義務を果たすような、そんな「犠牲者」的なことではない、「自分」という人間の個性を生かしてどんなことができるか、つまり、どう自分流に活動できるかだと、ダイアンは教えてくれたのである。

自分流の、自分が「生きる」ボランティア——そう考えた時、私の場合は、バスケット部で鍛えた大きな声と、文章を書くのが好きなこと、これが武器であり、個性である。早速先日、この武器を生かして、私の住む町の視覚障害者の方々に、私が戦後50年を迎えるにあたって弁論したもののカセットテープを聞いてもらった。私のような若い世代の者が、少しでも戦争を知り、平和への思いを述べたことは、特に年輩の方々にとっては感慨深いものがあったのだろう、皆涙を流して喜んで下さったのである。私もまた、自分の大好きな分野で誰かの喜びとなったことが、この上もない自信となり、自分の将来の夢へのやる気が増したのであった。

現在の私は、私の個性を磨く為に、国際交流センターに通って途上国に関する本を読んだり、論文を書いたり、忙しい毎日を送っている。以前から交流のある、韓国やシンガポールの友人達とも、手紙を通じて意見交換している。彼らから私は、日本軍による侵略戦争や虐殺のことを教えられた。あの冬のラジオの声を、わけもなく「アジアの言葉」だと信じ、耳を傾け、そしてアジアの大地をみたのは、彼らに対して私がどこかで、すまない気持ちを持ったからであろうか。